

科目分類	専門職の教育			開講学科	看護学科
科目番号	学年	配当セメスター	区分	単位数	授業時間数
73203	2	後期	必修	2	30
授業科目名 (英文)	小児看護援助論Ⅰ（健康生活援助） (Nursing Care of Children and FamiliesⅠ)				
担当教員名	篠木 絵理／田久保 由美子				
授業の概要及び到達目標					
本科目の授業を通じて 1. 各期の成長・発達状況、発達課題、予測される健康課題、看護の役割、 2. こどもの成長・発達を評価する方法、 3. こどもの身体計測および状態観察技術を学ぶ。 授業の到達目標は、こどもと家族をひとつのシステムとしてとらえる視点を養い、こどもの依存から自立に向かうプロセスへの援助を理解すること、乳児期から思春期までの各期の成長・発達の特徴を理解すること、またこどもと家族への援助に必要な基礎的知識を理解することである。 また、授業内で少人数グループ学習や習熟度に応じたグループ学習に取り組むことで、看護チームにおいて主体的に活動する基盤を養うことを目標とする。					
準 備 学 習 等					
履修開始までに、生涯発達ケア論の小児期の発達の学習内容について、指定テキスト及び授業資料をもとに復習して下さい。 各回の授業では、教科書を参考に、授業で配布するワークブックの授業該当部分を完成させて授業に臨むこと。					
成績評価の方法	評価の基準は、次のとおりである。 【筆記試験】80% 最終試験及び中間での達成度を確認する試験により評価する。最終試験は達成度評価の結果に応じ 0-10 点加点分を含み 100 点満点とし換算。 【課題レポート】20% 各講義ミニテスト及び課題の提出状況、内容により評価する。				
テキスト	・奈良間美保他,「系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学 (1) 小児看護学概論 小児臨床看護総論」第 13 版, 医学書院, 2015 ・奈良間美保他,「系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学 (2) 小児臨床看護各論」第 13 版, 医学書院, 2015 ・母子保健事業団,「母子健康手帳」				

参考図書	・二宮啓子・今野美紀編,「小児看護学概論 改訂第3版 子どもと家族に寄り添う援助」, 南江堂, 2017 ・二宮啓子・今野美紀編,「小児看護技術 改訂第3版 子どもと家族の力をひきだす技」, 南江堂, 2017 ・巷野悟郎編,「子どもの保健 第7版 追補」, 診断と治療社, 2018
備考	課題内容の詳細は第1回ガイダンスで説明するので必ず出席のこと。 本科目の単位取得は「母性・小児看護学実習」の履修前提条件である。 各教員のオフィスアワーについては、履修案内「オフィスアワー」の項を参照すること。
授 業 計 画	
第1回	ガイダンス・小児看護学概論・こどもの看護における対象理解（篠木）
第2回	こどもの成長・発達1＜身体機能＞（田久保）
第3回	こどもの成長・発達2＜認知言語＞（篠木）
第4回	こどもの生活と看護1＜活動と休息＞（田久保）
第5回	こどもの生活と看護2＜栄養と食事＞（田久保）
第6回	こどもの生活と看護3＜排泄と清潔＞（田久保）
第7回	こどもの生活と看護4＜遊びと学習＞（田久保）
第8回	小児保健1＜こどもと家族を取り巻く社会＞（篠木）
第9回	小児保健2＜病気・事故の予防と健康増進＞（篠木）
第10回	こどもの成長・発達の評価とヘルスアセスメント（篠木・田久保）
第11回	到達度評価（篠木・田久保）
第12回	各期の発達と健康課題1＜課題提示＞ 習熟度別学習（篠木・田久保）
第13回	各期の発達と健康課題2＜調べ学習＞ 習熟度別学習（篠木・田久保）
第14回	各期の発達と健康課題3＜成果共有＞ 習熟度別学習（篠木・田久保）
第15回	各期の発達と健康課題4＜まとめ・自己評価＞ 習熟度別学習（篠木・田久保）